

音との新たな出会いを生み出すAI

徳井 直生



アーティスト・DJ・研究者、株式会社Qosmo 代表、株式会社Neutone 代表

運営



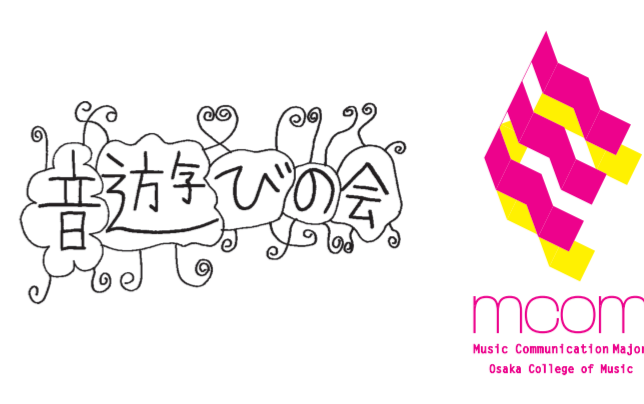
Art for Well-beingチームのスタッフ、全体 監修の小林茂さん

ワークショップ参加者



たんぼぼの家アートセンターHANAのメンバー (利用者) とスタッフ、音遊びの会のメンバー、大阪音楽大学の学生、公募で集まった人

オブザーバー



障害のある人やミュージシャンによる即興音楽の活動を続ける「音遊びの会」の飯山ゆいさん、大阪音楽大学の久保田テツさん

2022年度

2022年度の取り組み:表現に寄りそう存在としてのAI

文章から画像を生成するAI技術「Text-to-Image」を使った 画像生成ワークショップを実施。

障害のある作家と一緒に、色々なモチーフを生成したり、 その画像をもとに絵画を制作するなどの実験を試みました。

2023年

5月

今年は音楽をテーマにした取り組みをしてみても面白いかもしれませんね

AIプラグインNeutoneを紹介

8月

第1回ワークショップの実施@たんぼぼの家

たんぼぼの家のメンバーとスタッフを対象に、施設の敷地内の音を録音し、 その音をNeutoneで変換したうえで組み合わせ、音の作品を制作するワークショップを実施。 飯山ゆいさん、久保田テツさんにもオブザーバーとして参加いただき、今後の展開に関して話し合いました。

いわゆる音楽ではない、音と音楽の間のような「音・楽」をみんなで 作ればと思います

身近な音を改めて意識することは、 ケアに携わる人にとっても良い経験につながるかもしれないですね

普段の音楽とは違って、こういう形の音楽もあるんだっていうのを気づけて良かったです

録音したものをとりあえず聞くということと、それを構築する、という行為は別のものだと思います(久保田)

身の周りにあふれている音に耳を澄ませるところからやってみましょう

新しい技術を開発するというより、このワークショップ自体を一つのパッケージとして考案してみても良いと思いました

様々な参加者に開かれた形でのワークショップの実施の提案

大阪音楽大学&音遊びの会にワークショップ実施の提案

2024年

1月

第2回ワークショップの実施@大阪音楽大学

音遊びの会のメンバーと大阪音楽大学の学生、および一般公募で申し込みのあった障害のある人、ない人とワークショップを実施。 さまざまな背景を持つ人たちが参加し、対話を重ねながら作品をつくりました。

フィールドレコーディングだけでなく、声とか、身体から出る音に焦点を当てても実施できるかもしれませんね

録音して作品をつくることを目標にせず、リアルタイムでの音声の変化を楽しむようなワークショップもあるかもしれないですね(小林茂)

自分の動いている施設の、重度心身障害の方の咳や呼吸の音も表現としてとらえられるのではないかと 思いました

各チームでセッションのようなコミュニケーションが生まれていたのが印象的で、AIもその一員として参加しているようでした(飯山)

音と新しく出会う赤ちゃんのような気持ちになる、刺激的なワークショップでした

2月

このワークショップをもっと様々な現場にカスタマイズして実施できるのではないかと思います

Neutoneを用いた取り組みができないか提案

施設等での見学&Neutoneをつかったデモンストレーションの実施

ワークショップに参加してくれた人たちの勤める福祉施設や病院で Neutoneのワークショップの提案。 今後の展開の可能性を話し合いました。